



## 閻浮檀金の色という色彩表現の意味

色名の「紫磨金色」に近い意味を持つ表現に、「閻浮檀金の色」という色彩表現が見られる。閻浮檀金は仏教用語で、読み方は「えんぶだごん」か「えんぶだんごん」である。

閻浮檀金の閻浮は、古代インド神話で世界の中心である須弥山（しゅみせん）の南方海上にある島に生い茂っている樹の名前を表す。閻浮の閻は、冥界の王、閻魔の閻で、「(生死の) 分かれ目」を意味する。檀は川を意味し、閻浮檀金は、この島に生い茂る閻浮樹の大森林を流れる川の中から採掘される美しい砂金を意味する。

「閻浮檀金の色」は、紫色を帯びた赤黄色の良質な砂金の色を表している。

『観無量寿経』では「閻浮檀金の色」という表現は、浄土を観想する13の方法を説く第四観の樹想や第八観の像想の他に、第九観と第十観でも用いられている。極楽の宝樹の華や、阿弥陀仏の座像、観世音菩薩の顔色を形容する他に、阿弥陀仏（無量寿仏）の輝く光明は、「百千の閻浮檀金の色（光）」（『浄土三部経』岩波文庫、全2冊下巻、1990年改訳、56頁）でも比べることができなと言及されている。この例文では金色が「光」と同義で用いられている。 (吉村耕治)

## ●富山県美術館のシロクマさん

富山駅から富岩運河環水公園を抜けて美しい水辺を歩いていくこと17分位。屋上にカラフルなオブジェ（遊具）が見えて子供の遊んでいる姿が見える。「オノマトペの屋上」というようだ。ここが「富山県美術館」。2017年に移転オープンしたものだ。『クマの姿を借りた阿弥陀如来が佐伯有頼を導き、開山させたという立山の開山伝説』にちなみ制作された彫刻家・三沢厚彦氏の大きなシロクマが富山美術館のシンボルになっている。

屋外広場のシロクマは真っすぐ立山連峰を望む方に立っている。眼の色が緑と青。製作者の三沢厚彦氏によれば青は富山の空と海・緑は立山と富山の自然を象徴的に表わした色だそうだ。自然豊かな富山県。大きなシロクマの輝く眼の色で表している。楽しいことに企画展によるが、「クマ割」があるそうで、クマのグッズを持っていたり、クマの絵柄の洋服など着て来館すると観覧料が割引になるそうだ。 (Sizuka)



## ●大辞泉ひろいよみ 24ーう

**薄茶**：抹茶の一。濃い茶より抹茶の量を少なくする。おうす。薄い茶色。薄茶色。

**薄匂い**：色を薄くぼかすこと。また、香りがかすかにすること。

**薄肉**：薄い肉色。俳優が化粧に使う薄赤い色。薄肉彫りの略。

**薄鈍**：うすにび。染め色の名。鈍色の薄いもの。薄いねずみ色。その色の衣服。僧服・喪服など。

**薄鼠**：薄いねずみ色。薄墨色。うすねず。

**薄花色**：薄い藍色。薄縹。

**薄花桜**：色の薄い桜の花。薄い桜色。襲の色目の名、表は白、裏は紅。薄桜。

**薄花染め**：薄花色に染めること。また、そのもの。

**薄縹**：薄い縹色。薄花色。

**薄二藍**：うすふたあい。染め色の名。二藍色の薄いもの。

**薄紅**：薄い紅色、唇・頬などに薄く引いた紅。

**薄緑**：薄い緑色。

**薄紫**：薄い紫色。

**薄萌葱・薄萌黄**：薄い萌葱色。襲の色目の名。表は薄い萌葱、裏は表より少し濃い色。

**薄模様**：薄紫色に染めた模様。

\*大辞泉：小学館発行国語辞典

(永田泰弘)